

「お金」を面白いほど引き寄せる黄金ルール

29. “プラス思考の習慣”がお金にも運にも愛される

「たった千円」「まだ千円」この感覚の違いが豊富の大きな分岐点。

物事はどんなことでも、二通りの解釈ができます。たとえばお財布の中に千円札一枚がある。そのとき「え、たった千円しかないの」はマイナス思考、「まだ千円あるわ」というのがプラス思考の考え方です。

物事は何でもプラスにもマイナスにも考えられますが、マーフィー博士は「できるだけプラス思考でいくこと」を勧めています。実はこれには深いわけがあるのです。

それは人間は誰もが本能的にはマイナス思考の存在だからです。どちらに解釈してもいいのに、なぜ人間は悪いほうに解釈することが多いのでしょうか。それはほかの動物と違って大脳を発達させたからです。

要するに頭がいい。頭がいいから先が読めるんです。けれど、先を読むとき、悪いほうを想定することが圧倒的に多いんですね。これは無理ありません。悪いほうに想像するから準備ができる。予防策が講じられる。そうやって人類は文明を発達させてきたのです。

マイナス思考が体にしみ込んでいます。今でも自分で修正しない限り、七割から八割方はマイナス思考で考えるのが人間の思考習慣なのです。マイナス思考も悪いわけではありませんが、困ったことが一つあるのです。

それは、考えたことが潜在意識に刻印され、実現の方向に動き出すことです。「悪いことが起きる」と考えてばかりいると、本当に悪いことが起きてくるのです。実際に「自分はお金に恵まれないのね」とか「いつも損ばかりしているわ」などと思っている人は、そう思わない人に比べると、悪いことが起きる確率がとても高くなるのです。

このことはすでに自己暗示の法則として、心理学の世界では動かしがたい事実として認められていました。しかし最近になって遺伝子の働きからも、それがはっきりと確認できるようになったのです。

ですから、プラス思考の習慣がないと、人生はつらく苦しく、悩みが多いモノになってしまう可能性が大きい。その前提に立ったアドバイスが、マーフィー博士のこの言葉には込められているのです。マイナス思考は放っておいてもしてしまいます。だから意識してプラス思考をしてバランスをとる必要があるのです。
